

西成特区構想エリアマネジメント協議会第22回「地域活性化交流・観光専門部会」議事要旨

1 日時 令和7年9月24日（水）19時から21時

2 場所 西成区役所 4階 4-7会議室（オンライン併用）

3 出席者

（有識者）

阪南大学教授 松村 嘉久
大阪公立大学客員教授 水内 俊雄
関西学院大学教授 白波瀬 達也
近畿大学准教授 寺川 政司

（大阪市）

式地 西成区役所総合企画課長

（地域メンバー）

ありむら 釜ヶ崎のまち再生フォーラム渉外担当
上田 NPO法人こえとことばとこころの部屋（ココルーム）代表
山田 大阪府簡易宿所生活衛生同業組合副理事長

4 議題

- （1）・新今宮エリアブランディングの取り組みについて
- ・魅力発信の取り組みについて

5 議事要旨

今年度の取り組みとして、事務局より①新今宮エリアブランディング（新今宮スタディーツアー／新今宮ワンダーランド2025）、②魅力発信（現代芸術振興事業、西成情報アーカイブ、西成しごと博物館、大阪フィルハーモニー協会との連携）について説明を行い、方向性について合意を得た。

◆新今宮スタディーツアー（主催者情報）

- ・釜ヶ崎スタディーツアーで大人数の団体申込みや民間企業参加が増加。
- ・大阪万博と兼ねて参加するケースあり。
- ・月3回実施し、1名でも申込みがあれば開催する一方、少人数開催が多く「1回あたりの参加人数の増」が課題。
- ・長野県飯田市「学輪IIDA」へ視察予定。大学連携を軸とした推進体制のノウハウを参考にしたい。

（委員意見からの意見等）

- ・西成アートツアー（月2回、各回10～20名）等の既存企画内でスタディーツアー情報を共

有すれば送客が期待できる。

- ・区内ローカル拠点での開催情報が不足しており、情報集約・発信の「プラットフォーム作り」が重要。
- ・区予算で区民を招待する仕組みや、他団体との連携による集客拡大を検討すべき。

(2) その他

6月実施の横串会議を受けて、外国籍住民が増えていることに対し、本部会としての対応の方向性などを意見交換

- ・特区民泊に伴うごみ・騒音等の苦情があり、地域側にメリットが見えにくいとの意見。
- ・福祉マンションの高齢化と、民泊転用を目的とした買収・取り壊しの動きが区内、区外にも広がっているとの指摘
- ・萩之茶屋地域で企業登録410社中、中国系ペーパーカンパニー152社を確認（現状は違法とは言えない状況。）
- ・生活保護受給者の立ち退き等の有無・影響について、問題が顕在化する前に動向把握を求める意見（具体物件名の指摘あり。）

→事務局）就労系事業者による立ち退き強制は他の会議等で確認している旨説明

（後日調査を行ったが、生活保護受給者が強制的に立ち退きさせられている状況などは確認ができなかった。）

- ・住民減少や地価高騰によるジェントリフィケーション懸念が示され、外国人との共生とまちづくりの観点で勉強会を実施したいとの提案あり。
- ・特区民泊の事業方針（9月30日に示される見込み）を踏まえ、10月上旬～中旬以降に有識者で打合せを行う提案あり。

6 会議資料

- ・地域活性化交流・観光専門部会出席者名簿
- ・新今宮エリアブランディングの取り組みについて
- ・魅力発信の取り組みについて